

平成17年度 第2回（平成17年9月6日）図書館運営協議会 会議要旨

1. 出席者

運営協議会委員（10名）

三輪会長・矢口副会長・宮内委員・武田委員・小滝委員・松田委員・小野委員・
神崎委員・提坂委員・戸谷委員

図書館側委員（4名）

小柳中央図書館長・関根奉仕係長・坂井視聴覚係長・林田戸山図書館長

図書館事務局

佐藤管理係長・濱田企画調整主査・東主任主事

2. 場所 中央図書館大会議室

3. 開会

【三輪会長】

ただいまより第2回運営協議会を開催いたします。

前回欠席された小滝委員より自己紹介をお願いします。

【小滝委員】

津久戸小学校長、小滝岩夫と申します。

前は公務のため欠席いたしました。一つだけPRさせていただきますと、今年度から三ヵ年、津久戸小学校の特色として、学校図書館活用教育の充実を掲げています。

よろしく願いいたします。

【三輪会長】

資料の確認ですが、平成17年「新宿区の教育」をご確認ください。

本日は報告事項が1件、協議事項が2件あります。

報告事項について、事務局からお願いいたします。

【佐藤管理係長】

8月11日付で図書館運営協議会あて投書がありましたので紹介させていただきます。

(図書館運営協議会あての投書及び中央図書館長名による回答文書 読み上げ)

配布資料は「図書館年鑑 2004」からの抜粋ですが、人口別の統計となっています。資料費については千代田区は4万未満の市区では群馬県の下妻市に次いで2番目、4,239万円です。新宿区は人口は30万未満の市区では、資料費は大阪府茨木市、調布市について3番目、12,043万円です。

蔵書冊数では、千代田区は人口4万未満の市区では1位、26万冊です。新宿区は人口30万未満の市区では7番目、84万1千冊です。

人口1人あたりに換算すると千代田区は新宿区の人口の約1/7なので千代田区が若干上回りますが、資料費総額から見れば新宿区は決して少なくないといえます。

午前9時開館は、まったく要望がないわけではありませんが、地区館も閉館時間を午後6時から7時にしたことでもありますし、中央図書館も午後8時から午後9時への延長を希望する利用者が多いので、回答文書にはそう書かせていただきました。

新宿区立図書館で受入れている寄贈本は年間約5,000冊ですが、その10倍くらい寄贈がよせられています。

しかし、自分のところで不要になった本は、図書館で利用者に提供できないような状態のものが多く、そのままリサイクル本に回させてもらうことが多いのが実情です。

以上で報告を終了します。

【三輪会長】

ただいまの報告事項について、ご意見やご質問がありましたらお願いします。

質問ではありませんが、回答文書の中に、運営協議会からも開館日、開館時間の延長について提言をもらっているとありますが、この説明をお願いします。

【佐藤管理係長】

今年3月に図書館運営協議会から頂いた提言の12番目「開館日及び開館時間の拡大」の充実策は以下のとおりです。

「区民・利用者の要望を踏まえ、各図書館の開館時間を1時間延長できるように、職員の勤務体制及び管理運営体制の見直しなどの問題を検討し、開館時間・開館日を順次拡大することが望ましいと考えます。

①早期に四谷図書館を除く地域館7館の平日の開館時間を午前10時から午後7時までに夜間1時間延長

- ②四谷・角筈・大久保の3館については、毎月第4日曜日を開館(地域センターとの併設の関係で現在は毎月第4日曜日休館)
- ③祝日の開館日を増やし将来的には年末年始を除き全祝日の開館
- ④中央図書館・四谷図書館の平日の開館時間を午前10時から午後9時まで夜間1時間延長
- ⑤中央図書館は通年開館(月曜日も開館)」

このうち、①については今年の5月10日から、火曜日から金曜日までの4日間、午前10時から午後7時までの開館時間延長を実施しております。現在、来年度に向けて次のステップを考えているところです。

【三輪会長】

3月の提言の段階では、午前9時開館の要望はなかったですね。

【佐藤管理係長】

はい。提言は5段階になっていますので、最終的には⑤の中央図書館の通年開館まで進めるべきだというのが運営協議会からいただいたご意見です。

【提坂委員】

私も投書の方と同意見で、9時に開館してほしいと前から思っていました。

9時ごろは、母親が子どもを幼稚園に送り出して帰ってくる時間です。下の子を連れて図書館に入れるのではないのでしょうか。一度家に帰ってからはなかなか外出しにくいです。

また、新宿には学生が多く、自分の部屋で勉強するより他の勉強する人の姿をみて発奮することもあるでしょう。自分も学生時代、図書館は9時から開館していましたが、開館と同時に争うように入館した記憶もあります。

新宿区内には住宅地も多いので早めの開館が望まれるのではないのでしょうか。

中央図書館だけでも、9時からの開館を希望します。

9時開館を希望する声が少ないというのは、なにかアンケートでもとったのでしょうか。

【佐藤管理係長】

15・16年度の図書館運営協議会でも、午前9時からの開館を希望する意見がありました。

世論調査はしていませんが、他の調査で、登録している人は区民が6割、区外が4割ですが

利用実態では新宿区民が4割、区外が6割であり、朝よりも夜のほうが利用者が多い傾向にあります。9時開館を求める声もありましたが、多数ではありませんでした。

またもうひとつの課題として、現在10時間開館していますが、これを1時間延長すると、今の職員体制を2交代制にする必要がでてきます。職員を増員しなければなりません、現在は人員は増やせません。管理運営形態を変えなければ無理です。現時点の枠組みの中では今の時間を踏襲せざるを得ません。当然、サービスの拡充が求められますので、必要があれば管理運営の形態の変更も含めて検討していく必要があると思います。

【小柳委員】

今、管理係長が言いましたように午前9時開館については認識していないわけではありません。他の自治体をみますと午前9時開館の図書館がかなりあります。人員体制や経費の問題もあります。いろんな管理運営形態も考えられます。午前9時開館も選択肢のひとつではありますが、できれば夜の延長や開館日の拡大に力を入れながら、運営協議会の5項目の提言の実現を優先的に考えていきたいのでご理解願います。

【提坂委員】

今のお話はわかりました。

夏休み早く子どもが起きます。勉強時間も早くなります。

新宿の子どもたちのことを考えて、夏休みの間だけでも、午前9時に開館するようにしていただきたい。5項目の次の順位でもかまわないので、考えていただければと思います。

子どもたちの調べ学習にも役立ちます。

【松田委員】

私は小学校の学校評議員をやっていますが、夏休みは小学校も学校図書館を開放しているので、小学生に限っていえば、ある程度はカバーできているのではと思います。

【三輪会長】

この件は報告事項だったのですが、折角ですので議論させていただく機会としました。

【神崎委員】

昔に比べれば、開館日数も増え開館時間も長くなりましたが、図書館職員も開館時間だけ働いているのではなく、準備や会議、書架整理等その前後も働いています。勤務時間を延長すると残業代など経費が必要になります。そういう点を説明すれば投書された方も納得されるのではないのでしょうか。

【佐藤管理係長】

常勤職員が 87 名、再任用職員が 5 名、非常勤職員が 31 名、合計 123 名職員がいます。

年間の人件費は常勤職員だけで 8 億強、再任用職員と非常勤職員で人件費が 1 億ちょっとかかります。

中央図書館でもインターネット予約が増えて、以前は年間のアクセス件数が 250 万件くらいだったのが、今年は 1 日 3 万件越えています。以前の 5 倍くらいになりそうな勢いです。

毎日、少なくとも 100 冊以上毎日配本車に詰めており、バックヤードの時間が多くかかっています。事業別コスト計算もやっていますが、いろんな問題が輻輳しますので、時間当たりの経費はデータとして出すのは難しいのが実情です。

お金がかかっても努力と工夫で枠の中でやっていけるものはやっていかなければならないと思っています。それを超える部分は別の手段を考える必要があります。

【三輪会長】

開館時間については、運営協議会ではもっとデータを出しながら議論していきたいと思います。

午前 9 時開館を否定しているのではなく、提言にある 5 項目を優先しながら 9 時開館も視野に入れるということです。

人件費もかかりますので勤務体制やボランティアの活用の議論にもつながってくると思います。

それでは次の議題に入ります。

協議事項 2 件について、事務局から報告願います。

【濱田企画調整主査】

児童サービスとヤングアダルトサービスについて、ご報告させていただきます。

児童サービスについては 19 世紀になってアメリカやイギリスの公共図書館で始まったものとされ、20 世紀前半に発達した子どものための図書館サービスで

す。子どもと本を結びつけ、子どもに読書の楽しみを伝えることで、子どもたちの想像力や感性が磨かれ、困難に立ち向かう力が育まれるということにもつながるのであり、重要なものです。

2000年に子ども読書年の国会決議がなされ、2001年には子ども読書活動推進法が成立し、今年7月22日に文字活字文化振興法が成立しました。この法律は本を読む環境を整備するのが目的です。こういった動きの中で、新宿区がどのような児童サービスを実施しているかについて簡単にご説明いたします。

読み聞かせ、お話会については16年度の実績で768回実施しています。これは中央図書館以外の地区館もすべて含めての数字です。

768回の参加人数は全部で8572名です。

実施回数では中央図書館が一番多く297回、2823名です。二番目が鶴巻図書館で109回、1503名です。

次に工作会ですが昨年度は17回実施しています。内容は折り紙工作や人形劇、クリスマスおたのしみ会と様々な催しを行っております。

今説明した部分については先ほどお配りした「新宿区の教育」の172～174ページを参考にいただければと思います。「新宿区の教育」で図書館のページは159ページ以降ですので、適宜こちらもお覧いただきたいと思います。ちなみに運営協議会委員の皆様のお名前は161ページに掲載させていただいております。

つぎに子ども映画会です。昨年度は28回実施しています。毎年4月に区内の小学校新一年生全員に図書リストと利用案内を発行しています。年1回、図書館だよりを児童向けに編集・区内全校児童にも配布しています。

このほかに児童館などの施設、読書グループには団体貸出も行っています。

また、図書館サポーターによるお話会も実施しています。具体的には中央図書館で第2・第3・第4土曜日、毎日曜日、小学生向けに実施しています。角筈図書館では第3土曜日、小学校低学年向けに実施、中町図書館では第2火曜日、乳幼児向けに実施しています。

子ども読書活動推進計画に基づく取組みとして、新一年生に図書館利用を呼びかけています。

小学校が30校、新宿養護学校を含めて31校あり、毎年5月に実施しています。実際に図書館の職員が小学校・養護学校に出向いて登録をお願いしています。平成16年の一年生1267名のうち310名が新規登録しました。今年是一年生1359名のうち391名が新規登録しました。

次に平成16年7月27日に子どもホームページを開設しました。子ども向けに分かり易い内容となっています。

次に児童文学作家による講演会ですが、昨年度は17年2月に絵本作家のとよたかずひこ先生をお招きして四谷区民ホールで実施しました。全部で88名の参加がありました。今年度も、とよた先生の講演会を中央図書館で10月に実施予定です。

次に病院サービスの実施についてです。区内の病院に長期間入院している子どもたちへの配本サービスを行う予定です。区内の11病院に依頼したところ、国立国際医療センター、東京女子医科大学病院、東京医科大学病院、社会保険中央総合病院の4病院から協議に応じる旨の回答をいただいています。今年5月から6月にかけて4病院と具体的に協議を進めてまいりました。感染症対策についても協議しました。配本サービスは2ヶ月に1度、将来的には読み聞かせも検討し、書架および滅菌器を購入いたします。こども図書館が子どもの日あたりに開館する予定ですが、その後病院サービスを開始する予定です。

こども図書館についてですが、中央図書館は昭和47年に開設、竣工は昭和45年であり築35年を迎えており、児童室も老朽化してきています。子どもたちや保護者にとって必ずしも快適な空間になっていないということで、18年2~3月に改修工事を予定しています。ここで中央図書館をセンター化する計画です。こども図書館のコンセプトとしては、読書環境の整備、子育て支援、学校図書館の支援、団体貸出の充実、地域図書館の支援、バリアフリー化、ヤングアダルトコーナーのリニューアル化、が挙げられます。

こども図書館については、今年5月からプロジェクトチームが立ち上がっております。

今後営繕課と協議して来年の1月くらいからは2階部分を閉鎖して改修工事を進めてまいります。来年の「こどもの日」にリニューアルオープンを予定しています。

以上のような取組みを新宿区ではしております。区立図書館では児童読書活動推進計画の56項目の半分、28項目について現在取り組んでいます。

つづいてヤングアダルトサービスについて報告します。

1940年代頃からアメリカで使用され始めました、日本では長らく青少年という言葉が使用されておりましたが、1970年代より日本でもヤングアダルトという言葉を使用するようになりました。13歳から18歳、中学生から高校生、大人とこどもの中間にある世代を対象にしています。

目的としてはヤングアダルト一人一人の発達段階に応じた個人的要求に対して図書館が有する資源を総合的かつ効果的に提供していくということです。新宿区の図書館では児童サービスの一部として児童室に設けています。

中学生と高校生の不読率が高まってきていることに対応するため、すでにヤングアダルトコーナーを設置済の中央・四谷・西落合・戸山・鶴巻の5館に加

え、未設置であった北新宿・中町・角筈・大久保の4館にもヤングアダルトコーナーを設置しました。コーナーに図書を配架するだけでなく、いかに中高校生の読書への関心を高めて、学校の学習や個別活動、人生、社会問題、進路に関する資料などに役立つものを紹介展示していくかが課題です。

現在、ヤングアダルトコーナーは児童室の中には分かりにくい場所にあるので、改修後は分かりやすいように2階の入口付近に設置することを決定しております。今現在は児童担当職員が選書をしていますが、運営協議会の提言ではヤングアダルト選任職員を置くのが望ましいという意見もいただいております。以上雑駁でございますが、ヤングアダルトサービスの説明とさせていただきます。

【三輪会長】

今年度の運営協議会の役割としては、今年3月の提言を受けて、図書館サービスがどれだけ充実してきたかを確認することもその一つだと思います。

確認したうえで、さらに、どのように充実させていくか、またPRをどうやっていくかも課題です。

まず、児童サービスについての意見をお願いします。

【提坂委員】

新宿区の子ども読書推進活動計画に基づいて1～4を実施しているのだと思います。それも大切でしょうが、やはり地域の中で子どもたちを育てていくには、学校図書館と地域の公共図書館が常に連携していく必要があるのではないのでしょうか。さいたま市では地域の図書館が学校図書館に図書の団体貸出ができるようになっています。

小学生は、放課後はなかなか地域の図書館に行けません。調べものをするときにはインターネットになってしまいます。検索で出てきたものを一方的に見てしまうこととなります。本だと、自分でいくつかの中から選択できます。与えられたものを鵜呑みにするのではなく、

選んでいく能力を高めるためにも本は有益です。

【佐藤管理係長】

学校図書館と公立図書館の連携は必要だと思っています。

子ども読書推進計画の基本理念も、子どもにいかに読書に親しんでもらうかにあります。

調べものをインターネットで済ますのがいいとは思っていません。中央図書館にも調べ学習のために中央図書館に来館しますが、地区館には一クラスの子

どもたちが行ったとしても調べ学習に耐えうるだけの蔵書を用意していないところも多い。しかし学校からの要求もあるので団体貸出等で対応が可能であれば逐次対応させていただいているところです。

将来的には学校図書館と公共図書館の連携を図りコンピューターでつなぎ、学校からオーダーがあったときにはすぐ対応ができるようなシステムも検討したい。

現実には経費もかかりますし、学校図書館との連携については徐々に対応をきめ細かくさせてもらっており、もう少し時間もかかるところです。

【小滝委員】

基本的には、今言われた方向で進めていただければと思います。

何が重要かと考えた場合、津久戸小には、かなりの蔵書があります。さらに充実させようとしたら、区教委の方には津久戸小は他の学校の1.3倍も蔵書があるのですよといわれました。

まず本は古いものが多いです。読み物が圧倒的に多い。古い本でもいいものはたくさんありますが、子どもたちが主体的に調べる学習活動読書を環境つくっていくにはこれでは不十分です。自分で調べられるような本、発達の段階に合った本を目の前で開いて調べる学習をしっかり根付かせたい。インターネットで調べるには、小学低学年や中学年には難しい内容が多く、理解が困難です。

現在の新宿区の学校と図書館の連携はまだ不十分であります。まずは、校内のLANを結ぶことを優先したいです。ゆくゆくは、公共図書館ともLANで結んでどういう資料がどこにあるのか、単に書名だけでなく、内容もわかるような検索ソフトも入れていきたいと思います。限られた予算の中で制限もあり十分協議をしながら進めていきたいです。

【小柳委員】

学校図書館との連携を検討しています。予算の話もありましたが、新宿区第四次実施計画では学校図書の実況について17~19年度の3カ年計画を策定しております。

区内で図書館と児童館が併設されている建物がある。縦割りにとられることなく連携も考えていきたいです。

【武田委員】

現在杉並に住んでいます。平成14~15年度に小学校に図書館スタッフが配属されましたが、その後継続しているところや中止したところがあり、学校によ

ってばらつきが出てきています。この件で図書館側から指導や、取組みはされているのでしょうか。

【佐藤管理係長】

学校図書館には平成 14、15 年の緊急地域雇用創出特別補助事業として図書館スタッフが各校に 1 名ずつ配属されました。

16 年度から制度が変わりましたが、学校独自の判断で実施していただいています。学校図書館の充実を図りたい学校は継続しています。

ボランティアなどのスタッフについて図書館からは働きかけはしていません。ただ、区全体で考えれば学校図書館のボランティアだけではなく図書館サポーターは 117 名ほどおります。

独自に学校図書館のボランティアだけではなく図書館広く考えている。

【小滝委員】

司書教諭を置くか置かないかについて、図書館からの要請があったことはありません。学校図書館法の改正によって 12 学級以上は司書教諭を配置するようになっていますが、それ以下は学校長の判断によっています。

自分のところは 6 学級ですが司書教諭を置いています。

ただ、定数外の司書教諭であり、司書教諭の授業数を減らして図書館の充実時間に時間を割くということは難しく、現実的には司書教諭のサービスによるところが大きいのが実情です。

【宮内委員】

学校図書館大会に関する全校調査を行いました。全国の小中学校を対象に 5% の回答をいただきました。司書教諭は本来なら 12 学級以下のところに配置されていませんが、司書教諭として配置されることで授業などが軽減されるかという、そんなことはありません。司書を担当すればするほど負担は増えます。

学校行政に学校独自に教育委員会と協議し 12 学級以下でも司書教諭を入れていることはあります。

以前は経験年数 4 年があれば講習で履修すべき科目の一部又は全部が免除されましたが、3 年前に改正されてその規定はなくなりました。これから司書教諭の免許を取る方は幅広い知識をもって図書館を運営できると思います。

学校図書館大会でアンケートを実施し、全国の小中学校を対象に 5% の回答を頂きましたが、

図書館の活動に参加したいかとの設問には、司書教諭資格は取りたいが、そういう活動には参加したくないという回答が約7割でした。

現場は忙しいため、学校では総合学習について、きちんと取り組まれていないのではないのでしょうか。

【小滝委員】

図書館教育がいかに大事かということをあらためて申し上げたい。

公立図書館とどのような連携ができるか、精査しながら進めていき、別の機会に進捗状況について申し上げられたらいいと思います。

司書教諭が機能していない、充実していないという話がありましたが、地方教育審議会では私たちの司書教諭の配置に際しては選任化していただきたい、定数外ではなくて選任化して配置していただきたいと意見表明しました。

選任化すると学校図書館に関しては他の先生が司書教諭に頼ってしまい、他の先生の意識の高まりがかえってなくなってしまうという問題があるといわれましたが、特色ある教員配置を行うということになり、要求は聞いてくれたのかと思います。

【佐藤管理係長】

実態として国からくるお金は人件費だけです。

新宿区も東京都も不交付団体であり交付税の対象外です。国は図書費を出しても区には入ってきません。

鳥取県は片山知事が、非常勤だった司書教諭をすべて常勤にしました。17年の4月から実施しています。

新宿区では司書のあり方については学校によって形態が異なります。

【武田委員】

図書を充実しても利用するのは子どもです。司書教諭がいることによって子どもの学校図書館利用が増えます。

司書教諭が配置できないのならボランティアを導入するなどして対応していただきたいです。

【佐藤管理係長】

毎月4箇所の保健センターでブックスタートを健康部と一緒に実施しています。新生児3、4ヶ月検診のとき、本を2冊の読み聞かせを行っています。学校図書館のサポートも検討しています。平成15年度には司書教諭を対象とした研修会を一度実施しました。

【三輪会長】

主に学校図書館、司書教諭についてお話いただきましたが、先ほどの提言に関して等なにかございますか。

【小野委員】

読み聞かせについてですが、友人が保健所で読み聞かせのボランティアをしています。就学前の子どもも入れるのであれば、今の図書館は子ども連れの若いお母さんが行き易いとは思えません。

こども図書館をつくる時に、若い母親と小さな子が入り易い図書館づくりに努めていただきたいと思います。小学校に入ってからではなく、就学前からの対応が必要です。

【佐藤管理係長】

土曜日、日曜日のお話会には子連れのお父さんも多くみえています。日曜日のお話会は未就学児童が中心で、お母さんの膝のうえに乗っているお子さんが多いです。

入りにくいことはないと思います。お時間があればのぞいてください。

【小野委員】

国際化に対応するために 小さい子どもを対象に英語の読み聞かせを行ってもいいのではないのでしょうか。

【戸谷委員】

以前住んでいたところでは、図書館職員が一クラスの人数分の本を学校に持ってきて図書館の利用方法などについて説明することがありました。授業参観として実施され、そのときに母親も呼ばれていった記憶があります。

図書館職員が新しい本を持参して図書館の利用方法を教え、本がひとり一冊ずつクラスにしばらく置かれます。子どもが早く読もうとします。長男はそこで活字を読むスピードも上がり、読書が好きになりました。

子どもが幼児からヤングアダルトになる前に、一回本が好きになればあとは自分で読んでいくようになります。

下の子は学校ではそのような体験をしていないので読書への興味も薄く、読むスピードも遅いです。

「新宿区の教育」40ページを見ると、4年生で急に不読率が下がっているのも、新宿区でも何らかの指導をされているのではないかと思いました。

【佐藤管理係長】

その辺りについては子ども読書活動推進会議でまとめております。次回には発表できると思います。

【三輪会長】

ヤングアダルトサービスについて何かご意見はありますか。

【小野委員】

中・高校生に対して図書館 PR 活動はしていますか。

【佐藤管理係長】

ホームページに載せているだけで、独自の活動はしていません。そこは PR が不足していると思います。なお、ヤングアダルトコーナーではマンガが一番読まれています。

【三輪会長】

日本のマンガには人生訓や哲学も入っていて無碍に否定はできないと思います。

【矢口副会長】

中・高校生ですと読書以外に受験勉強のための図書館利用もあると思いますが、どう対応されているのでしょうか。

【佐藤管理係長】

図書館は本を読むための場所であって、勉強室ではないとの原則ですが、実際は勉強に利用している人が多いのが実情です。

【矢口副会長】

中・高校生が受験勉強や調べ学習で集まったときに、図書館に馴染む場があったほうがいいのではないのでしょうか。

【佐藤管理係長】

勉強する席を提供していくのはなかなか難しい面があります。ヤングアダルトに限らず、多くの方に図書館利用の PR を考えています。

【宮内委員】

小中高生向けに図書館利用教育のためのビデオを作成してはどうでしょうか。コンパクトに地域の図書館がどういう活動をしているのか分からせることができます。

日本図書館協会で作成しているものもありますので参考になります。

【小柳委員】

日本図書館協会で作成しているビデオを、新たに図書館職員になった職員に見せて活用していますが、利用者向けの映像をこちらで製作するのは難しいと思います。

【神崎委員】

児童室改修期間中は閉鎖するのでしょうか。

【佐藤管理係長】

改修期間中は閉鎖を考えています。5万冊の本は一時的に別に保管する予定です。

【三輪会長】

本日の図書館運営協議会はこれで終了します。

次回はレファレンスと視聴覚サービスについて議論します。